

日本の大学院に学んで

八戸工業大学大学院工学研究科 機械システム工学専攻
博士後期課程 付 景順

私は中国の瀋陽工業大学からの留学生です。急速に発展している時代に応じて、自身の学術を高め、日本の進んだ科学技術を勉強するために、2年半前に来日しました。八戸工業大学大学院では自動車用エンジンの燃焼診断と制御の研究を進めています。大気汚染や地球温暖化を抑制するため、排気の抑制と燃費の低減をはかる技術として、筒内圧力センサとマイコン信号処理による燃焼直接制御システムを実現しようとしています。

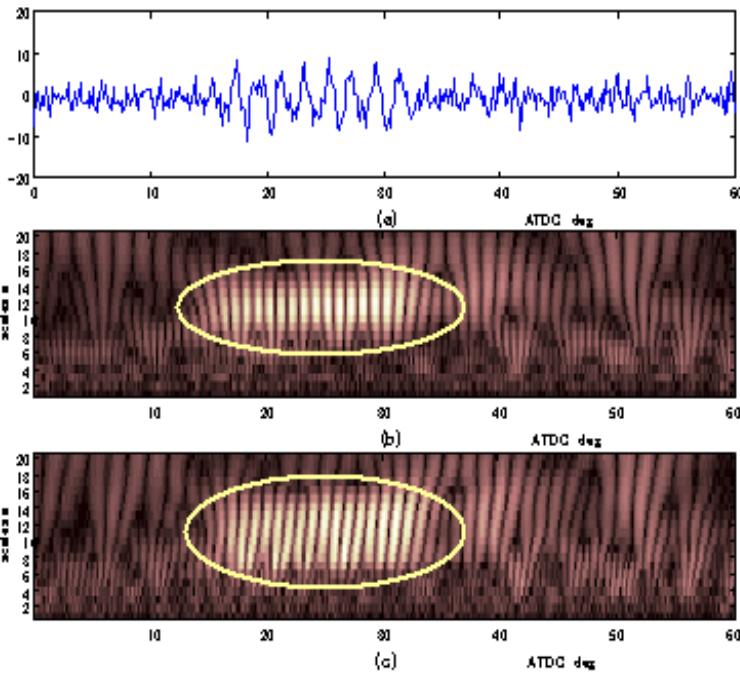


図1 筒内圧力信号のウェーブレット変換

図1は圧力信号のウェーブレット解析結果の一例です。自動車に関する技術は、中国より日本ほうがかなり進んでいて、瀋陽工業大学ではこうしたエンジンについてはまったく研究したことがありませんでした。まず、専門用語から勉強しなければなりませんので大変でした。それでも、現在では先生のご指導で、充実した留学生生活を過ごしています。工学博士を目指して、これからもいっそう研究を頑張りたいと思っています。ところで、自動車のような交通手段がなかった時代には、どこへ行くにも、自分の足で歩くしかなく、行動範囲が限られていたのに対して、現在の自動車は、地球上のほぼ隅々まで自由に往來を可能にする便利な物になりました。日本は経済発達した国で、自動車の値段が安く、自動車は国民生活に不可欠なものとなり

りました。日本の自動車は種類が多く、高品質で、しかも燃費が良く、中国でも人気があります。私は子供の頃から自動車のことに興味を持ちました。夢として、自動車を運転することを憧れたことがありました。残念ながら、まだ中国では、一般サラリーマンには自動車の値段が高すぎて、買うことが出来ませんでした。しかし、近年、中国の経済発展に伴って、自家用車がドンドン増えていますので、将来、国へ帰ったら、この夢をなんとか実現しようと思います。

大学院での研究活動とともに、日本に来たからには、できるだけ多くの日本人と交流し、いろいろな文化活動に参加して、見聞を広めて、日本文化を理解するように努めています。日本の茶道を体験したり、着物を着たり、日本三駒のひとつである八幡駒の、その踊り(八幡駒音頭)を習ったりして、初めて日本の伝統や文化を自分の肌で感じることができました。中国にいた時にテレビや映画でしか見られなかった美しい風景が自分の目の前に現れて、まさに「百聞は一見に如かず」で、本当に感動しました。特に、一番深く印象に残ったことは温泉の旅でした。日本は昔から温泉が多いので、日本人の大切な娯楽のひとつになっているそうですが、私は日本に来る前から、ぜひ、一度温泉に行ってみたいと思っていました。私にとって初めての温泉は八戸地域近郊で有名な古牧温泉でした。大学の忘年会の時、先生に連れて行っていただきました。古牧温泉の日本一と称する大岩風呂に入って、大きな水泳場のようにほんとうにビックリしました。特に、冬の冷たい空気の中、雪がヒラヒラ舞い降りる中での露天風呂は素晴らしく、雪が積もった庭と滝を眺めながらの温泉は、最高の気分でした。温泉に入ってリラックスする、これが日本人の長寿の秘訣であるのかも知れませんね。わずか一泊でしたが、この温泉旅行を通じて私は日本の文化への興味が深まりました。その後、奥入瀬溪流にある名瀑露天風呂「八重九重の湯」、「桂の湯」、八甲田の麓にある素

朴な「自然の湯」と、いろいろな温泉を訪ねました。霧に覆われた浅い新芽の春、木漏れ日が川面に映えて美しい緑の夏、紅葉の秋、純白の雪の冬など、豊かで美しい青森の自然を私は大好きです。(写真1 八甲田, 写真2 城ヶ倉大橋にて)このような環境で体得した日本の生活や文化の知恵は一生忘れ得ないものになりつつあります。

今、私は人も土地も馴染みの薄い環境の中ですが、異国での孤独を忘れ、無限の温かさを感じています。こうした文化を深く理解し、八戸工業大学と瀋陽工業大学、日本と中国の友好交流をより促進するために今後とも努力していきたいと思います。



写真1 八甲田にて



写真2 城ヶ倉大橋にて